



のための
思考法

ASKING THE RIGHT QUESTIONS :
A GUIDE TO CRITICAL THINKING

情報空間コーディネーター・YouTuber

浅村正樹

ASAMURA MASAKI

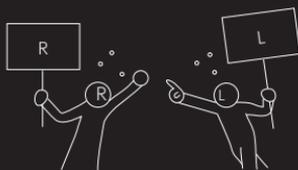


② マスコミを
信奉する人は
バカだと思う

Yes

No

バカの壁 2



③ 極端な思想
に溺れる人は
バカだと思う

No

Yes

バカの壁 3

⑤ 自分はバカだから
多くの情報を
集めたいと思う

Yes

No

バカの壁 5

④ 自分は
バカだと思う

Yes

No

バカの壁 4



バカの壁 4 …アナタはうぬぼれバカです。

バカの壁 5 …アナタはリテラシーのないバカです。

バカの壁 6 …アナタは思考しないバカです。

▷ バカの壁脱出テスト

①から⑥へ順番にお答えください。
Yesの方は次へ進んでください。
Noの方は壁の解説をご覧ください。

START

① 物事を疑わず
考えが浅い人
はバカだと思う

Yes

No

バカの壁 1

GOAL!!!

⑥ バカはバカなりに
思考し続ける
必要があると思う

Yes

No

バカの壁 6

バカの壁脱出

／ おめでとう
ございます！

解説

バカの壁 1 …あなたはバカの国の王様です。

バカの壁 2 …あなたは洗脳バカです。

バカの壁 3 …あなたは思想バカです。



【ポリティカル・コレクトネス】

〈解説〉

Political Correctness、通称 PC とは、「政治的正統性」などと訳されている。もともとはマイノリティの差別的な表現や認識を改めるといふ左翼運動から出た言葉であるが、現代では様々な立場の人たちが PC を利用して、自分たちの「正統性」を主張していることもあり、本来の意味で使われないこともある。社会の変化とともに使用される言葉は急速にアップデートされている。

〈事例〉

- ・ビジネスマン→ビジネスパーソン
- ・看護婦→看護師
- ・「美白」という言葉は使用しない……花王

▷ バカのための常識クイズ①

PC って、なに？

答え



ヒント

「ポ」から始まります。

【グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン、マイクロソフト】

〈解説〉

Google、Apple、Facebook、Amazon、Microsoft を総称して「GAFAM（ガーファム）」という。

「GAFAM 帝国」などとも言われ、稼ぎだす巨額マネーを背景に世界で絶大な権力を持っている。私たちの知らないところで世の中を実効支配しているという意味で、その動向を注視しなければならない存在になっている。=ディープステートなのか？

〈事例〉

- ・ YouTuber の垢 BAN（アカウント停止）
- ・ Facebook、Twitter のトランプ前大統領、アカウント永久凍結問題など

▷ バカのための常識クイズ②

GAFAMって、なに？

答え



ヒント

「グ」から始まります。

案内状

本書を読む前に、
大きなカテゴリーとキーワードに
留意してみてね。

情報 [第4章]

GAFAM 時価総額 SNS
ビッグ・テック 中国 社会主義

感情 [第5章]

コロナ 東京オリンピック
ロックダウン セルフトーク
聖書 神 意識

楽しんでいって
ください!



▷ バカのための思考テーマパーク

隣国 [第3章]

米国大統領選挙 トランプ
世界緊急放送 不正選挙
SATORISM TV 二極化

世界 [第2章]

ネガティブ思考 ハッシュタグ
テレビ 日本の借金 陰謀論
思考停止 ニュース

教育 [第1章]

近現代史 GHQ 日本国憲法
給食 偏差値 マスコミ 牛乳

◎ プロローグ

かつて私も「バカ」だったが、バカバカしくなって「バカ」をやめてみた！

～ 「バカ」はやめられる ～

2020年のクリスマススイプ、その夜、私は「バズって」しまった。

「バズった」と言っても、一夜にして超有名人になったわけではないのだが、それでも私の人生にとっては初めての衝撃的な出来事だったのだ。

何でバズったのかと言うと、自身のYouTubeチャンネル『SATORISM TV』の視聴回数とチャンネル登録者数が一晩でほぼ100倍になったのだ。

とは言え、YouTubeではその程度のことには珍しくないのかもしれない。最近では芸能人などの有名人がテレビを離れYouTubeに参入してきている。そういったユーチューバーは一気に登録者数が100万人を突破したり、数十万再生のヒットを連発したりしている。

ただ、私自身のチャンネルが「政治・経済ニュース」であり、且つ「自己啓発系」であること、

私自身が超無名のユーチューバーであることを考えると、一晩でチャンネル登録者数が100倍になったわけだから、堂々と「バズりました」と言えるのではないだろうか。その日以降もジワジワと増減を繰り返しながら、それまで数十人のチャンネル登録者数だったものが、1ヵ月ほどで300倍くらいになった。

一般的に、「政治・経済ニュース」チャンネルや「自己啓発」チャンネルは伸びないと言われている。そもそも、YouTubeは娯楽性の高い情報媒体だ。テレビを観るような感覚で視聴しているユーザーが大半なのではないだろうか。テレビよりもさらにパーソナルな娯楽情報媒体だと考えれば、わざわざ難しい内容の動画を視聴する人は当然少ないはずだろう。それなのに私のチャンネルが一晩で100倍の視聴者を獲得するとは、いったいどうしたことか？ 遅ればせながら、時代が私に追いついてきたということか？

実は、そうではなかった。『SATORISM TV』以外の「政治・経済ニュース」チャンネルも軒並みバズりまくっていたのだった。伸び率でいえば、私以上にもっと凄いチャンネルもあった。「政治・経済ニュース」という分野でヒットチャンネルが続出した理由は、動画という手軽さもあるかもしれないが、世間の人々の志向が少しずつ変化してきているからではな

いだろうか？ と私は分析している。というのも、この現象のきっかけが2020年のアメリカ大統領選挙だからだ。

2020年11月に行われたアメリカ大統領選挙は史上空前の盛り上がりを見せたと言えるかもしれない。そもそも、毎度アメリカ大統領選挙は世界中が注目するわけだが、とくに今回の選挙は、展開があまりにもドラマチックで、関連する不思議な出来事もたくさん発生したため、それまで政治に無関心だった大多数の人たちまでもが注目して情報は錯綜した。

そもその問題は、トランプ大統領を落選させるために不正な操作が行われた疑いがあることだ。ご存じない方のために簡単に説明しておきたい。大きく分けてポイントは2つ。

ひとつは、投票所に向かなくても投票できる「郵便投票」において不正が行われた疑惑。もうひとつは、投票所の票集計マシンがハッキングされ票の改竄かいざんが行われた疑惑である。この不正疑惑に関しては現在も司法の場で係争中なので「不正選挙だ」と断言はできないものの、どう中立的に見ても「不正はあった」と思えて仕方がない点が多い。

選挙が意図的に操作されていたとなれば、それは選挙による民主主義の崩壊だ。選挙不正が横行しているということが証明されれば、誰も選挙結果など信じなくなる。したがって、アメ

リカ国民だけに留まらず、世界中の多くの市民が重大な関心を寄せたのだ。

加えて、当該選挙の不正疑惑を取り上げたツイートやFacebook投稿記事、YouTube動画などが悪質な陰謀論として一方的に削除されたり、アカウント停止措置を受けたりした点も騒動の要因となった。

詳しくは本編第3章で解説するとして、このことをきっかけにして、大統領選挙に直接関係のない日本でも、それまで以上に多くの人が国際政治のことや世界の権力構造などに関心をもち始めたのではないだろうか。

また、2020年には中国発のコロナパンデミックで世界中が混乱していることもあり、これから世の中がどうなってしまうのかについて、多くの人が真剣に考え始めたのではないだろうか。そして、そんな人たちが一生懸命に情報収集を始めた。だから、超無名ユーチューバーである私のチャンネルも、それまで以上に多くの人たちに視聴していただけるようになったのだらう。そして、そこからご縁が生まれ、本書執筆の企画へと繋がっていった。

さて、本書執筆にあたり、個人的に気にしている点がある。それは『バカのための思考法』という本書のタイトルが、捉え方によっては「上から目線」とも感じられるので誤解されるの

ではないかという点だ。ここで言うっておきたいのだが、『バカのための思考法』は決して上から目線で読者を見下しているわけではないのである。

科学が進歩し、世の中はどんどん便利になっている。それは良いことなのだが、一方で私たち人類は、科学技術の発達により体を使わなくなるどころか、頭と心を使って深く考える必要すらなくなっている。ビッグデータから統計を割り出し、人工知能が代わりに分析して最適解を提示してくれる。例えば、YouTube は自分の好みに応じた動画ばかりを視聴してしまう構造になっている（つまり、「バカ」になるように私たちは仕向けられている）。

頭を使って情報検索しなくてもいいし、自分と異なる価値観の情報に接して感情を害することもない。使わなくなった体の器官は退化していくというのではないか。

つまり多くの人の思考力と感受性は退化してしまう可能性があるのだ。本書のタイトルは、そういったことへの警鐘を鳴らす意味が込められていると受け止めていただきたい。

「バカ」とはIQの問題ではなく、むしろIQの高い人たちが「バカ」になっていく世界構造の中で生きているがゆえ、私たちは、その「バカ」から脱出しなければならない、と私は考えている。少なくとも本書を手にとっていただいているあなたは、その「バカ」を受け入れてい

るので、購入している時点で「バカの壁」は越えていると言えよう。

巻頭でテストをしていただいたのは、「自分はバカである」という認識からスタートしていただきたいという想いからである。逆に「自分はバカではない」という認識の方は、そのご自身のプライドをいったん捨て、本書を読んでいただきたい。

さて、ここでああなたの日常を振り返ってみてください。自分を含め、身近な人たちを観察してみると、「半径5メートル情報の世界」に閉じ込められていると感じることはないだろうか。

「半径5メートル情報の世界」というといささか大袈褻かもしれないが、五感が利く範囲もしくは目の前のことしか認識できないという意味だ。そして私たちは「習慣の生き物」なので「半径5メートル情報の世界」に慣れてしまうと、その外側に世界が広がっていることもわからなくなり、そこから出て行こうとも考えなくなるのだ。言い換えれば、私たちは常にバカになっていくメビウスの輪から逃れられないのである。

かつては私の世界も半径5メートルだった。世の中について何も知らず、また何も考えずに漫然と生きていたのだ。「自分が何も考えていない」ということすらわからないというのはバカとしか言いようがないのだが、それでも若かりし頃は「好きな音楽の道で生きていく」とい

う夢があったので楽しかった。しかし、よくある話ではあるが、「国破れて山河あり」というか、自分で夢を手放した時、本当の自分を見つけてしまったのだ。30歳くらいで私は自分の頭で何も考えずに生きてきたバカであるということを悟った。

自分が「バカ」だと認識した日から、とにかく「一日も早くバカの人生をやめなければならぬ」と決めた。私の言う「バカ」とは「他人思考・他人価値観」で生きることを指しているのだが、「バカ」を卒業するには「人生の目的」が必要となる。人生に目的を持てば、様々なものに対して関心が湧いてくるだろう。関心は疑問を呼び、疑問が検索能力を向上させ、検索によって手に入れた「知識」と「思考力」がその疑問を解決するはずだと私は考えたのだ。

人生にどんな目的を設定するかは自由だが、どんな人生を送るにせよ、私たちの人生の舞台はこの現実世界だ。したがって、この世界がどんな構造で成り立ち、どんなストーリーを経て現在に至るのか。そこに関心を向け「知識」と「思考力」を向上させていくことは極めて重要なことだと思う。

本書は、【教育】【世界】【隣国】【情報】【感情】といったテーマを軸に、その中で取り上げるニュースや現実世界に関心を向け、諸問題に自分事として向き合う視点と「自分思考・自分

価値観」の人生を生きるためのヒントを解説していこうと考えている。

あくまで個人的な見解なのだが、文明の発展とともに、今後「自分の頭で考える」機会はなくなっていくように感じている。情報はますますコントロールされ、全体主義的価値観で言葉や行動が制限されていく未来が待っている。そう考えると、私たち人間は、どんどんバカになっていくのではなからうか（一部の人たちを除いて）。

バカは半径5メートル情報の檻の中に閉じ込められる人生なのだ。諸外国はいざ知らず、私たち日本人がひとりでも多く「与えられることに慣れきった脳」||「与えられ脳」を捨て、「自分思考・自分価値観」の人生に目覚めることを願う。

浅村正樹

バカの壁脱出テスト

バカのための常識クイズ①

バカのための常識クイズ②

バカのための思考テーマパーク 案内状

◎プロローグ かつて私も「バカ」だったが、バカバカしくなって「バカ」をやめてみた！ ～「バカ」はやめられる～…… 010

第1章

「思考停止」という快樂に溺れる バカな俺たち——「教育」

- ∞ なぜ学校の授業では、近現代史の時間が足りないのか？…………… 024
- ∞ GHQがやって来た！…………… 027
- ∞ アメリカ人が創ってくれた「日本国憲法」…………… 031
- ∞ GHQの教育改革く墨で塗られた教科書く…………… 035
- ∞ どうして学校の給食は、毎日牛乳を飲まされるのか？…………… 038
- ∞ 目的思考で読み解くアメリカの「パンと牛乳」戦略…………… 041
- ∞ 「正しく解答する」ための詰め込み偏差値教育は、日本人のあるべき姿か？…………… 044

第 2 章

ニュースから、

この世の構造を知る——「世界」

- あなたの思考や価値観はマスコミが創っている…………… 047
- 他人思考・他人価値観は気持ちいい…………… 051
- 教育が創り上げた社会主義先進国「右做へ、日本」…………… 055
- 【思考法のヒント①】…………… 060

- 「漠然とした不安」じゃ物足りない…………… 062
- 基本的に私たちは全員ネガティブ思考…………… 065
- ハッシュタグ検索で、あなたの世界観は狭くなる…………… 068
- 「天気予報」と「プロ野球の結果」だけは信じてやれ…………… 072
- テレビは逆様で眺める…………… 076
- 「日本の借金問題」を問題視するという日本の問題…………… 080
- 「日本人は平和ボケしている」と全員が思っている問題…………… 084
- 所註どっちも陰謀論…………… 088
- 「思考停止」が生み出す怪物…………… 092

第
3
章

- 〇 真実のニュースはない、真実は自分の頭の中で組み立てるもの…………… 095
- 【思考法のヒント②】…………… 098

アメリカ大統領選挙に見る、
人類の二極化——「隣国」

- 〇 2020年アメリカ大統領選挙と別世界の隣人…………… 100
- 〇 不正選挙が招いた「陰謀論」…………… 103
- 〇 いつ、「世界緊急放送」は始まるのか？…………… 108
- 〇 二極化していくユーチューバーと視聴者…………… 111
- 〇 動画のコメント欄で遭遇した「別世界の隣人」…………… 114
- 〇 「大丈夫です。水面下ではトランプが勝っています」症候群…………… 118
- 〇 シンプル・イズ・デンジャラス…………… 121
- 〇 トランプに一喜一憂するな、それより自分の人生を生きろ…………… 125
- 〇 本当ならトランプの復活は不可能だ…………… 128
- 〇 なぜ隣人は別世界にいるのか？…………… 133

第4章

超管理型社会主義体制の近未来、ビッグデータを独占するGAFAM——[情報]

【思考法のヒント③】……………138

- 圧倒的な時価総額を誇るGAFAM……………140
- すでに人類の大半はGAFAMの支配下にある？……………144
- SNS企業は何屋さんなのか？……………148
- SNSの驚異的な情報統制力……………152
- ミッションは「人々に考えさせない」こと……………155
- 見えない脅威を与えられて、羊たちは飼い慣らされる……………158
- すでにこの世は「人間牧場」だ……………162
- 超管理型社会主義体制が世界を席巻する……………166
- 世界の覇権は米国か中国か、それとも——……………170
- 2025年、多くの羊たちは消える……………174
- 【思考法のヒント④】……………180

第
5
章バカを脱出するための
思考法——「感情」

- ∞ 世界を一変させたコロナパンデミックとは何か？……………182
- ∞ 私たちはコロナパンデミックと向き合っているのか？……………186
- ∞ 私たちが自身が創造したコロナパンデミック……………190
- ∞ 私たちはネガティブな情報こそ信じてしまう……………194
- ∞ 何も考えずに生きていられるのは、誰かが考えているから……………198
- ∞ 人生において自分の代わりはない、だから自分をもっと知るべき……………201
- ∞ 人生の大半は自らの反応でできている……………204
- ∞ 言葉を選べ！ 言葉によって人生の質が決まる……………207
- ∞ 原因論から目的論へと人生の舵を切れ……………211
- ∞ 心が先で現実が後……………214
- 【思考法のヒント⑤】……………218

◎ エピローグ 超納得の人生を生きようぜ……………219